

『水源の森』ジオラマづくりに挑戦 ～「みどり生き生き！みのお生き生き！体験フェア」に出展～

箕面の自然環境の保全などに関わる市民団体や NPO などの活動の紹介を目的として、10月18日（日）箕面市かやの広場で「みどり生き生き！みのお生き生き！体験フェア」が開催されました。晴天に恵まれた中、「工作体験」や「やきいも体験」、「わくわくステージ」などに多くの家族連れなど2100名が訪れ、にぎわいをみせました。

箕面森林ふれあい推進センターでは、「箕面体験学習の森」、「オオクワガタの棲める森づくり」、「森林環境教育セミナー」など日頃の活動を紹介するパネルを展示するとともに、「水源の森」ジオラマづくりを多くの子供たちに体験していただきました。イタドリの花穂、ケヤキの樹皮、水苔を主な材料としていることに、お父さん、お母さんからは驚きの声も聞こえました。30分程度の工程を終えた子供たちは、「難しかったけど、またやってみたい」などと満足げな笑顔を見せてくれました。



「オオクワガタの棲める森づくり」の取り組みに関心を抱かれたお父さん、自然とふれあう時間をもっと子供とつくりたいと感想を持っていただいたお母さんなど多くの親御さんにも身近な森林の大切さを感じていただけたようです。併せて野生動物の足あとづくりも実施しました。サクラの木片を、シカやタヌキの足あとの形に組み合わせて台紙に貼り付けて、子供たちは楽しみながら身近な自然を感じたようです。



みどり生き生き！みのお生き生き！体験フェア
「水源の森ジオラマづくり」と「動物のあしあとづくり」
完成の記念写真



箕面のシカは市民の敵か？シカ被害対策を議論！

～フォーラム「人と自然の共生のために・・・ 箕面の身近な自然を大切にしよう！」～

同日行われた市民イベント「みどり生き生き！みのお生き生き！体験フェア」に続いて、山とみどりの市民イベント実行委員会、箕面市、NPO法人みのお山麓保全委員会、明治の森箕面自然休養林管理運営協議会が主催して、フォーラム「人と自然の共生のために・・・ 箕面の身近な自然を大切にしよう！」が開催されました。

「～身近な自然から生物多様性の保全へ 未来のために私たちにできること～」をサブタイトルに、生物多様性による恵みと私たちの生活との関わりを確認し、身近な自然を慈しむ心を育むことを趣旨として、大阪における生物多様性、箕面における生物多様性保全の活動について、行政や市民団体から発表が行われました。

プログラム「シカによる食害について」において、箕面森林ふれあい推進センターの瀧岡自然再生指導官から「箕面地域におけるニホンジカの現状」と題して箕面におけるシカによる被害の拡大の脅威を訴えるとともに、平成26年度から実施している箕面国有林におけるシカの個体数管理事業やモニタリング調査の概要を説明しました。増えすぎたシカを減らしていかなければならない一方、シカとの共生も考えていかなければならない難しい現状を解説しました。



会場からは、シカはなぜ増加しているのか？国有林内でのシカの捕獲区域をもっと広げられないのか？といった質問があり、シカの問題への関心の高さがうかがえました。

